

## まずは「初めまして」から

5月17日、「外国の文化にふれ隊」と題して、シエルニー・デラ・クルズさんとアイミー・ロブレスさんと異文化交流会が行われました。

当日は、好藤地区の人たちを中心に18人が参加。約2時間半にわたって、互いに交流を深めました。

まずは2人の故郷・フィリピンについての学習会。「フィリピンはどこにあるか知ってる」の問いに、地図を覗き込む子ども達。学校や食べ物など、スクリーンに次々と映し出される初めて見るものに、参加者からは驚きの声が何度も上がり、真剣な表情で見入っていました。

そして、フィリピンの公用語である「タガログ語」も学習。「Magandang umaga.（おはよう）」「Magandang gabi.（こんばんは）」などの基本のあいさつから始まったものの、慣れない発音に参加者らは少し苦戦していたようでした。



1

るもの、口にするもの全てが発見の連続で、「これは何で作ったお菓子?」「これは何のジュース?」などさまざまな質問が飛び交っていました。

その後行われたジャンケン大会にダンス教室。参加者の顔には終始笑顔が浮かび、和やかな雰囲気。途中で、今回の交流会は終わりとなりました。「まだ話足りない」「今度は鬼北町のことも知ってほしい」。好藤公民館では、今後も交流会を開く予定にしています。興味のある方はぜひ参加してみてください。

文化や言葉の勉強の後は、フィリピンのお菓子やジュースを囲んでの交流タイム。見たこともないジュースやお菓子の数々に、子ども達は興味津々。準備をしている最中から、身を乗り出して見入っていました。

全員で乾杯。ジュースやお菓子を口にした人たちの反応はさまざまです。中には日本のお菓子と似たような味のものもあったようで、そんな共通点も再発見。見

異文化と触れ合うことは、たくさん「初めての経験ができる」ということ。そして、そこから「自身の世界が広がる」ということ。未知の世界に出会った瞬間、参加者らの目には好奇心が溢れていました。

もし町中で2人を見かけたら「クムスタ カ?（元気ですか?）」と声をかけてみませんか。



4



2

1\_初めて見るフィリピンのお菓子に興味津々の子ども達。一つ一つを手に取りながらじっくりと観察 / 2\_ずらりと並んだフィリピンのお菓子。「これは何?」準備の段階から子ども達から質問がとぶ / 3\_お菓子を囲んでのおしゃべりタイム。まずは「ホームシックはなかった?」などの質問から。そこから会話が弾む / 4\_思い出づくりに写真をぱちり。この笑顔こそがお互いの距離が縮まった証



3